

Public Resources Foundation

— 2016年度事業報告書 —



公益財団法人 パブリックリソース財団

賛助会員のお願い

公益財団法人パブリックリソース財団

2017年度 賛助会員のお願い

賛助会員として、当財団の組織基盤強化にご支援くださいますようお願い申し上げます。

【賛助会員制度の概要】

- ①賛助会費の使途：賛助会費は、全額、当財団の運営経費として活用させていただきます。
- ②お申込み単位：（個人）一口1万円、（法人）一口10万円。何口でも可
- ③賛助会員の期間：2017年4月1日から2018年3月31日まで
- ④当財団の賛助会費は、税制優遇の対象となります。
お申し込みいただいた皆様には、税務申告用に当財団発行の領収書を郵送でお送り申し上げます。
- ⑤賛助会員の特典：
 - ・ご希望に応じ、寄付およびその他の社会貢献の方法について、個別相談の機会を提供いたします。
 - ・当財団のメーリングリストに登載し、メルマガ等で情報提供をいたします。
 - ・当財団の出版物を優待価格で購入できます。
 - ・当財団が主催、共催する研修会、セミナー等に優待価格で参加できます。

1. 「賛助会員申込書」にご記入の上、以下にお送りください。
（「賛助会員申込書」は当財団ウェブサイトからダウンロードいただけます）

公益財団法人パブリックリソース財団

メール：center@public.or.jp Fax：03-5540-1030

2. 最寄りの金融機関でお振込をお願いいたします。

ジャパンネット銀行（銀行コード：0033）

はやぶさ支店（支店コード：003）

口座番号：普通預金 1872673

口座名義：公益財団法人 パブリックリソース財団寄付金口

フリガナ：ザイ)パブリックリソースザイダンキフキンクチ

ゆうちょ銀行

〇一丸(ゼロイチキュウ)支店

口座記号：00120-9

口座番号：当座預金 0487339

口座名義：公益財団法人 パブリックリソース財団

フリガナ：ザイ)パブリックリソースザイダン

公益財団法人パブリックリソース財団

〒104-0043 東京都中央区湊2丁目16-25 ライオンズマンション鉄砲洲第3 202号

「まずはお電話またはメールで
お問い合わせください」 TEL:03-5540-6256 FAX:03-5540-1030
E-mail:center@public.or.jp HP:www.public.or.jp

意志ある寄付が 新たな社会を創る

寄付者一人ひとりを大切にする カスタムメイドな寄付

「オリジナル基金」や「メモリアル基金」(後述)では、お一人おひとりの思いや人生の軌跡をうかがい、寄付者に寄り添った独自の寄付(助成)プログラムを編み上げていきます。

お預かりした寄付が、どのように活かされたかを寄付者にきちんとフィードバックしてまいります。「ドナーファースト」の視点に立つ「カスタムメイドな寄付プログラム」は、当財団の強みです。

寄付者の志を実現する 様々なプログラム

寄付が初めての方にも気軽に始められる「オンライン寄付」や、ご関心の領域から選べる「テーマ基金」など、多様な寄付プログラムをご用意しています。個人基金や企業の社会貢献をお考えの方には、ご関心のある社会課題をおうかがいし、最適な支援方策をご提案します。

現存する事業への支援にとどまらず、今まだ存在しない活動や人材を生み出すことも含め、寄付者とともに新しい社会を創ることに取り組みます。

NPOや社会的企業が 「変化」を生み出せるように

助成先のNPOや社会的企業が成果を上げるには、資金さえあればよい、という訳ではありません。高い問題意識と専門知識を持つNPOがそのミッションを達成するためには安定した組織力が必要です。

寄付が最も効果的に社会創造に使われるよう、私たちは助成先を、資金支援と組織基盤強化の両輪でサポートします。

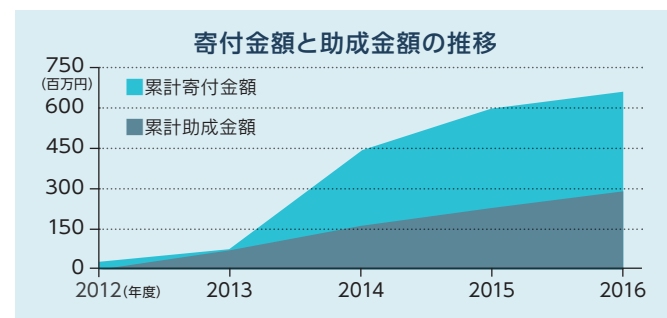
社会へのインパクトを重視

NPO等の活動が、どのような社会の変化、すなわち「社会的インパクト」をもたらすか、寄付者もNPO等の事業者も大きな関心を寄せています。私たちはNPO等の活動が生み出す社会や人々の行動変化(=アウトカム)を評価し、資金提供サイドとNPO等のコミュニケーションを促進したり、事業の改善に役立てています。アウトカムを評価し確認することは、手ごたえのある寄付を実現します。

数字で見る2016年度のパブリックリソース財団

寄付金額 >> 58,246,976円

2012年度に公益財団としてスタートして以来、5年で累計約6億6千万円のご寄付をお預かりし、約2億9千万円を助成金として提供しています。

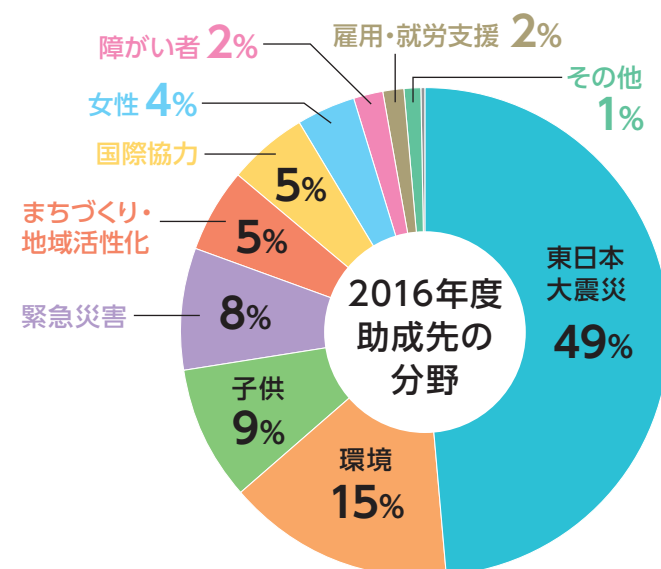


寄付件数 >> 6,144件

多くの方々からお志のこもったご寄付をいただきました。このうち5,771件がGive One(ギブワン)を通じたオンライン寄付、373件がそれ以外の寄付でした。

助成金額 >> 65,082,150円

いただいたご寄付は、助成金としてNPOなどの団体に提供されました。東日本大震災支援、環境、子どもや緊急災害など幅広い分野の活動を後押ししています。



Give One登録団体 >> 164団体

Give One(ギブワン)を通じて、パブリックリソース財団とNPOとのネットワークがさらに拡大しました。

助成団体数 >> 196団体

前年度からの継続助成を含め、196の団体と助成事業を進めています。団体の所在地域も北海道から沖縄まで、全国各地へ広がっています。

コンサルティング件数 >> 9件

パブリックリソース財団の特色のひとつが、NPOへのコンサルティングサービスです。本年度も9の団体への組織診断や組織基盤強化のコンサルティングを行ない、団体の活動とさらなる成長を支援しました。

掲載メディア >> 新聞11紙 書籍2冊 ラジオ1局

パブリックリソース財団の動きをメディアがキャッチし、記事として掲載いただく機会が増大しました。

設置基金数 >> 12基金

多様なテーマをもった基金を続々と設立しています。今年度も2つの基金を新たに設立しました。

AED設置数 >> 10台 (寄贈金額換算: ¥3,504,168)

2種類のAED基金に集まった寄付を元に、今年度計10台のAEDを寄贈しました。

奨学生数 >> 22人

地域の金融機関との協働により、パブリックリソース財団として初の奨学金を支給しました。



ごあいさつ

今、世界では孤立・分断と連帯・融和の二つの潮流がせめぎ合っています。

孤立感は、他社から奪われることへの恐怖や怒りに根ざしています。

一方で、人間という生物の本質を探った『NHKスペシャル ヒューマン なぜ人間になれたのか』(2012年)では、

「奪い合うのではなく、分かち合うことで人間になれた」としています。

寄付は、私たちの生命の根幹に在る人間性に結びついているのだと思います。

ここ数年、個人による「オリジナル基金」の創設が増えてきています。

ご自身の生きてきた軌跡や希望、故人の生きた証とその人の信念や願いを、他者と分かち合うような基金です。

寄付者からのご相談をうかがっていて、分かち合うことで人間は生きているのだということ、

さらには、人は亡くなっても人の心や社会の中で生き続けるのだということを実感しています。

新たに、ひとり親家庭や児童養護施設子どもたちへの奨学金制度に取り組んでいます。

子どもたちのお話からは、一人ひとりが将来に夢を持って懸命に生きていることが伝わってきます。

『この子たちから夢を奪ってはいけない』という強い思いに駆られるのです。

私どもは、「ドナーファースト」から「ヒューマンファースト」へと進化させ、寄付者とパートナーであるNPOや

社会的企業とともに、人間性の本質に根ざしたフィランソロピー社会の構築を目指していきます。

弊財団の2016年度の実績を取りまとめましたので、ご高覧ください。

平素のご支援、ご協力に感謝するとともに、引き続きのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2017年夏

公益財団法人 パブリックリソース財団

代表理事 久住 剛(理事長)

代表理事 岸本幸子(専務理事)

パブリックリソース財団の歩み

NPO リーダーの 育成	NPOマネジメント	調査研究	評価	年 主な出来事	社会的投資	寄付の推進	CSRの推進
				2000 1月 NPO法人パブリックリソースセンターとしてスタート			
		● パブリックリソースに関する基礎調査 ● ウイメンズファンドフォーラム		2001	● SRI(企業の社会的責任投資)のための企業の社会性調査を開始		
		● 「パブリックリソース・ハンドブック」出版		2002		● オンライン寄付 GambaNPO.netの運営開始	
	● NPO組織診断ツールの開発	● NPOの組織基盤強化支援に関する調査研究		2003	● 社債運用に関するSRIコンサルティング		
	● 組織診断・コンサルティングの開始	● キャパシティビルディングフォーラム		2004			
	● NPOマネジメント支援コンサルタント養成講座の開始			2005			● CSRインターンシップ・プログラムの運営(立教大学)
	● NPOマネジメント基礎講座開始	● 米国における寄付関連金融商品の動向に関する調査研究	● 企業の社会貢献活動の成果評価を開始	2006			● 世界11ヵ国における日本企業のCSR活動の調査
	● 通信講座を開始	● 米国における寄付関連金融商品の動向に関する調査研究	● 企業の社会貢献活動の成果評価を開始	2007			● 企業の社会貢献プログラムの支援を開始
				2008 12月 公益法人改革		● Give One(ギブワン)に名称を変えてリニューアル	
● 社会起業大学との協働		● 「NPO実践マネジメント入門」出版		2009			● 社員募金プログラム支援を開始
● 「新しい公共」支援事業における社会起業家育成事業		● サステナブル・インベストメント・フォーラム	● 企業の助成プログラムの事業評価を開始	2010			● 寄付つき商品の開発支援の開始
● 東日本大震災被災地における社会起業家育成事業	● (約130名が受講)	● SROIに関する調査研究		2011 3月 東日本大震災福島原発事故6月 新寄付税制公布		● (オンライン寄付)累計1億円突破	
	● (組織診断30団体突破)	● SROIセミナーの開催(東京・大阪)	● 東北の被災地支援のSROI評価	2012			
	● 中間支援4団体に組織診断ノウハウを移転			2013 1月 公益財団法人化 パブリックリソース財団設立		● 「アート&ヘルス基金」設置	● 企業基金「未来につなぐふるさと基金」を設置
			● 組織基盤強化事業のSROI評価	2014		● 財団初の個人基金「井上圭子様メモリアル基金」設置 ● 「ふくしま未来基金」設置 ● 遺贈支援の開始	
			● 中小企業経営革新のSROI評価	2015		● 女性を支える女性のための「あい基金」設置	
● 福島の未来を切り拓く人材育成「ふくしま若塾」	● (組織診断40団体突破) ● 福島でコンサルタント養成講座を開催	● 「寄付適格性」評価手法の開発		2016		● (オンライン寄付)累計2億円突破 ● 「純 子ども基金」設置 ● 「いそご寄付の窓口」加盟団体になる	● 全国初 信用組合による社会貢献プラットフォーム「魚沼の未来基金」設置

2016ハイライト①≫「オリジナル基金」

あなたの思いを形に変える

結婚記念、退職、相続や遺言による寄付など人生の節目に寄付をしたい。企業の新商品発表、周年記念事業などの折に社会貢献したい。そのような、寄付者の様々な思いを形にする、オリジナル基金を推進しています。

2016年度に創設された「純 子ども基金」をご紹介します。

<純 子ども基金>

➤「純 子ども基金」に込められた思い

純 子ども基金は、14歳で交通事故によって亡くなった國田純さんのご両親が、亡き純さんの生きた証を残し、やりたいことができなかった純さんの代わりに、未来を担う子どもたちが多くの可能性に挑戦できる環境を整えたいと事故の賠償金をあてて設立されました。

純さんの両親は、子どもを支援するNPOに関わった経験があり、その過程で、永続的な活動のためには、NPOの組織基盤の強化が重要と考えられ、純 子ども基金はそこに焦点をあてた助成を行っています。

💬 創設者のコメント

「純 子ども基金」を創設
純様のご両親

息子を亡くした時、私たちには喪失感と賠償金が残されました。私たちは息子の命と引き替えに受け取った賠償金の使途を考えあぐねましたが、夫婦で唯一合意したのは、「息子の代わりに別の子どもたちを支援すること」でした。自ら基金を作り直接支援することも考えましたが、個人的な運営は困難であると躊躇していました。

そんな時偶然パブリックリソース財団の「オリジナル基金」を知り、この基金なら息子の名前を残し、支援先も指定できると思い、寄付を決めました。すでに運営はわが手を離れましたが、息子が間接的に子どもたちを支援しているように思えます。時間の経過とともに息子のことは忘れ去られていきますが、基金の存在が、息子がこの世に生を受けたことの証明になったと安堵しています。

助成金額 …… 2,000,000円(2017年度に助成)

助成計画 …… 【1年目】1,000,000円／1団体

【2年目】1,500,000円／1団体

【3年目】1,500,000円／1団体

※純 子ども基金は、3年間の継続支援(審査あり)で、1団体あたり総額4,000,000円を助成します。

助成団体 …… ●NPO法人寺子屋方丈舎(福島県)
「福島県内の子ども貧困ネットワーク構築事業」
●NPO法人ウィーズ(千葉県)
「離婚・別居をとまなう両親の葛藤の間で揺れる子どものケアプロジェクト」



NPO法人寺子屋方丈舎では、福島県内に子ども食堂ネットワークを作る活動をしています。設立記念のイベントが、2017年度に行われました。

<お志を活かすオリジナルプログラムの設計>

当財団では、基金を100万円から創設できます。ご希望の名称を付けられるほか、ご寄付いただく方の想いを基金に表すことができます。

- ご希望の名称をお付けいただけます。
- 個人の方も、法人の方も創設いただけます。
- 当財団へのご寄付は税制優遇の対象となります。
- ご希望によって、寄付者の基金設立に寄せる想いやご家族の歴史を、リーフレットにまとめます。
- まとまった額のオリジナル基金の場合は、複数年にわたる助成を設計することができます。
- 支援の形は「経済的に困難な子どもたちへの奨学金」「NPO等への資金助成」「NPO等の組織基盤強化支援」など様々な要望についてご相談をお受けしています。

➤ 実感できる寄付実現のために

当財団では、寄付者の意志と人生を大切にするため、寄付者が寄付したお金のその後を知り、寄付の実感を得られる仕組み作りに力を入れています。助成団体選定の審査会にオブザーバーとして参加していただいたり、また助成団体の活動を実際にご覧いただくなど、寄付の成果を実感していただける機会を寄付者に提供しています。



オリジナル基金では、寄付者のライフストーリーをまとめたリーフレットをおつくりしています。

➤ オリジナル基金創設の流れ

- 1 支援したいテーマや社会課題をお伺いします。
- 2 社会課題をリサーチし、当財団から寄付プログラムの計画をご提案します。
- 3 計画についてご同意いただきましたら、ご寄付をご入金いただきます。
- 4 公募・審査等を行い、最適な支援先(団体や奨学生など)を決定します。
- 5 支援先への助成やマネジメント支援等を行います。
- 6 定期的に財団から活動・運営報告をお送りします。

社会課題の
リサーチ

プログラム
策定

支援先の
募集・発掘

審査会

具体的な
支援先の
決定

支援開
始

報告

2016ハイライト②≫「ふくしま未来基金」 30年後の福島を変えるNPOを支える

東日本大震災から6年が過ぎ、福島を含む被災地のフェーズは大きく変化しました。震災前（2011年度）と震災後（2012年度）では、NPOの増加数が全国平均で55件なのに対し、福島県はその約倍である100件と多くの団体が震災後に設立されました※。また、震災後、被災3県のNPO等には、多額の補助金や助成金が流れ込みました。しかし、震災から6年がたった今、その資金は次々と撤退しています。「今の事業をいつまで続ければよいのか」「新たに見えてきた課題をどう事業化すればいいのか」「組織の運営を未来につなげていくにはどうすればよいのか」。福島のNPOは今、岐路に立っています。

2016年度、ふくしま未来基金では助成金による支援に加えて、復興に取り組む人材育成、NPOのマネジメント支援を開始しました。 ※福島県ホームページ、内閣府NPOホームページ

寄付金額(累計)……352,555,000円

2本立ての助成事業

福島の将来を支える中核的な団体への「未来づくり助成」と、人々の心と生活の復興に貢献する民間活動を支援する「まちづくり草の根助成」の2本立てで助成事業を行っています。



「未来づくり助成」：3,000,000万円の助成金+50万円分のコンサルティング支援

「まちづくり草の根助成」：100万円の助成金

寄付者のコメント

ふくしま未来基金 創設者
佐藤 勝三様



パブリックリソース財団と一緒にふくしまの未来づくりに取り組み始めて、2年目となりました。助成事業の他に、「ふくしま志高塾」や「コンサルタント支援」などの人材育成事業が始まり、様々な活動が行われました。今まで行っていた助成事業による団体の支援はもちろんですが、この人材育成の事業が、より成果の上がるものになり、30年後の福島を元気にすることのできる人が増えればいいと思います。

助成金額……27,861,300円
応募総数……46団体
助成団体数……16団体
助成団体
＜未来づくり助成＞（ ）内は支援年数
●NPO法人がんばろう福島、農業者等の会（初）
●GoodDayMarket実行委員会（初）
●NPO法人コースター（初）
●NPO法人超学際的研究機構（2）
●NPO法人福島県有機農業ネットワーク（初）
●NPO法人NPOほうらい（2）
●NPO法人Lotus（2）
●NPO法人よつくらぶ（2）
＜まちづくり草の根助成＞
●NPO法人青空保育たけの子
●いいたてまでの会
●認定NPO法人郡山ベップ子育てネットワーク
●NPO法人勿来まちづくりサポートセンター
●福島移住女性支援ネットワーク（EIWAN）
●フクシマ環境未来基地
●NPO法人ふくしま30年プロジェクト
●福島大学災害ボランティアセンター

新しいプロジェクトに取り組む人を育てる「ふくしま志高塾」

未来を志向した夢のあるプロジェクトを地域で実現できる人材を育成するため「ふくしま志高塾」を開講しました。ふくしま志高塾は、「講義研修編」「実地研修編」「企画研修編」「メンタリング」の4段階で構成されています。塾生たちは7ヶ月かけて熟成させたプロジェクトを「プレゼンテーション大会」で発表し、会場の方々から意見や応援をいただきました。



受講者数……8名
プレゼンテーション大会参加者数……58名
実現されたプロジェクト……5プロジェクト
総受講日数……7日間+メンタリング期間4ヶ月
講師……●一般社団法人ふくしま未来研究会／志高塾・塾頭 佐藤勝三氏
●老荘思想研究者 田口佳史氏
●社会起業大学 学長 田中勇一氏
●ビッグイシュー日本 代表 佐野草二

塾生のコメント

NPO法人あさがお 理事長
西 みよ子様



ふくしま志高塾のお誘いに、何としてでも学びたい気持ちで、仕事は他の人をお願いして（無理やり）やっと参加しました。参加できて本当に良かったです。いろいろな先人や達人のお話は、自分の肝（はら）を決め、「兵は拙足を聞く」が大事とも習いました。まだまだ、これから、これからです。今までのご縁を大切にこれからに生かします。

NPO支援の人材を増やすための「コンサルタント養成講座」

NPOマネジメントの支援ができるコンサルタントを福島に増やすことを目的に、「NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座@福島」を開講しました。講座は「通信講座」「教室学習」「実際に活動するNPOでの実習」の3本柱で行いました。12名の修了生は、今後経験を積みながら、NPO支援をします。

受講生人数……12名
総受講時間……通信講座[30日間]
教室学習[36時間]
実習[21時間]
実習先団体数……3団体
受講生満足度……95%（教室学習・実習において「満足」「概ね満足」）



受講生のコメント

合同会社シェアード・エスイー 代表
長井 英之様



生業である情報システムのコンサルティングパートナーとしてNPOとのかわりは深かったのですが、本講座を通じ、取り組む課題や規模の異なる団体の皆様と事業や組織を共に考える機会に恵まれました。私は定量データの活用や成果の可視化に関心があり、取り組み方を模索する中、得られた意見は大きな収穫でした。この知見を元に今年は「一般社団法人オープンデータラボ」を設立、事業化の一歩を踏み出すことができました。

組織基盤強化フォーラム

持続可能な組織作りを目指し、「今こそ、組織の未来を考えよう」というテーマで「NPOのための組織基盤強化フォーラム in 福島」を開催しました。（協力：パナソニック株式会社）

プログラム

- 組織基盤強化とは何か
組織基盤強化の必要性やポイントなどを説明しました
- 事例報告とパネルディスカッション「組織基盤強化の実践」
組織基盤強化に実際に取り組んだ2つの団体と伴走支援者の方々が、事例報告をしました
- 簡易版診断シートを使った自己診断
強み・弱みを発見してもらい、客観的に自団体の運営を考えるきっかけにしました

開催日時……2016年11月1日 13:00～16:30
会場……コラッセふくしま
パネリスト……NPO法人みんなのひろば 理事長 齋藤大介氏
NPO法人しずおか環境教育研究会 事務局長 山本由加氏
株式会社PubliCo 代表取締役CEO 長浜洋二氏
公益財団法人パブリックリソース財団 評議員 山崎富一
参加者数……20名



2016ハイライト③≫「魚沼の未来基金」 全国初“信用組合による社会貢献プラットフォーム”

新潟県魚沼地域の塩沢信用組合の組合員を中心とする住民や企業の皆様からの志あるご寄付をもとに、2016年度は「はばたき奨学金」として、返済不要の奨学金の給付を開始しました。

寄付金額 5,201,757円
寄付件数 161件
応募者数 33名
奨学生数 22名
奨学金総額(予定) 2,112,000円



2017年3月16日に行った「はばたき奨学金」贈呈式の様子。

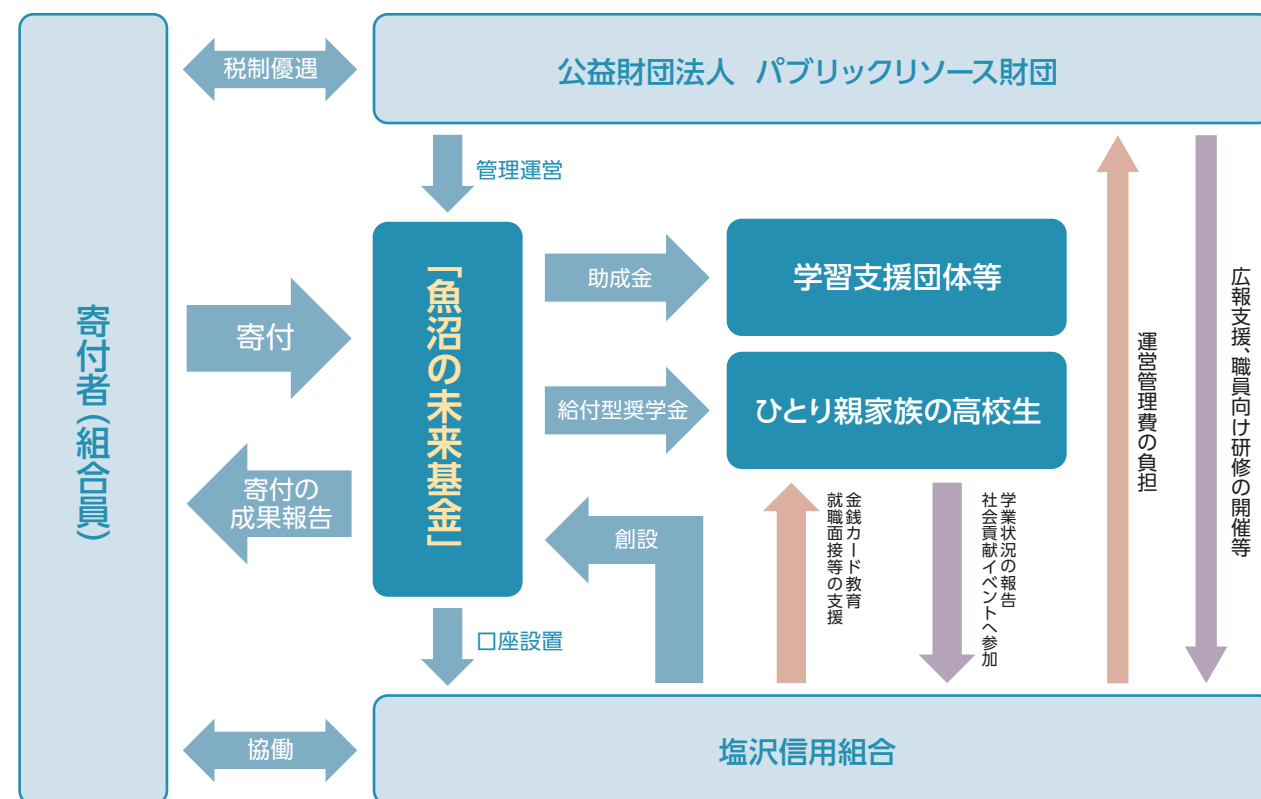


審査委員会。魚沼・南魚沼両市長も、審査委員として審査をしました。

➤ 魚沼の未来基金の特徴

信用組合が組合員に呼びかけて寄付を募り共に地域に貢献する、社会貢献のプラットフォームを提供するのは全国初の取り組みです。公益財団と協働することで、寄付者に税制優遇のメリットを提供すると同時に、寄付金使途の透明性を実現しています。

「魚沼の未来基金」の仕組み



💬 基金創設者のコメント

塩沢信用組合 理事長
小野澤 一成様



首相肝いりでもうまくいかない寄付事業。少額を割り当てる方式しか定着しないとされている日本ですが、住民自らが地域を支えようとする「助け合いの文化」が住民主導の寄付事業として、この魚沼から発信できたら素晴らしい。魚沼というところは、米だけでなく、志のある人も大勢いて、地域の宝である子供たちを地域で育てようとする文化がある。全国へ波紋を広げることを夢見て設立に至りました。

💬 寄付者のコメント

司法書士
小林 克行様



「ゼロからイチの距離」は思った以上に遠く、貧困等により厳しい環境に身を置く子どもたちが自力でその距離を縮めるためには、途方もない努力が必要です。経済的に厳しい環境にいる子どものほとんどは、何らかの方法で家庭を支える決意をすることでしょう。魚沼の未来基金は、学びたい気持ちを抑えなければならない子どもたちの未来への一歩であり、その一歩が社会を変えることを願ってやみません。

💬 奨学生代表のコメント

この度はこの取り組みをしていただき、ありがとうございます。(中略)高校は志望する高校に合格することができたので、毎日一生懸命勉強し、たくさんの方々に支えられていることに感謝しながら、充実した生活を送っていきたいと思っています。そして、こんな風にたくさんの方々に支えられていることを常に意識しながら、将来恩返しできるようにしたいと思っています。

◀ 奨学生アンケートより

- 少しでも母の負担が軽くできるかと思い、うれしい気持ちと、このような奨学金を用意していただいたことへの感謝の気持ちです。
- 少し未来が明るくなった気がします。
- 少しでも親の負担がかかるかならと思い、申し込んだので、とてもありがたい。
- 私は多くの人に支えられて学校生活を送れたので、何事にも全力で取り組む学生生活にしたいです。
- たくさんの人に支えられていることに感謝して、充実した高校生活にしたい。
- 勉強を頑張って、いつかこの町に貢献できるような職業に就きたい。

◀ 保護者アンケートより

- 給付型(返済不要)の奨学金はとてもありがたい。魚沼で実施され、感激した。
- とても和らぎました、安心しました。よく眠れるようになりました。
- 大変不安でありましたが、この基金のおかげで、不安は少し和らぎました。ありがとうございました。
- ありがたいです。それと申し込む時に、子どもといろいろと話せたのもよかったです。



「はばたき奨学金」贈呈式後の記者会見。メディアの注目の高さがうかがえました。



奨学生によるボランティアの様子。「軽トラ市」のお手伝い。



奨学生には、ステータスバッジが贈呈されました。

ゴールデンエイジや女性の願う「末永い社会貢献」を実現

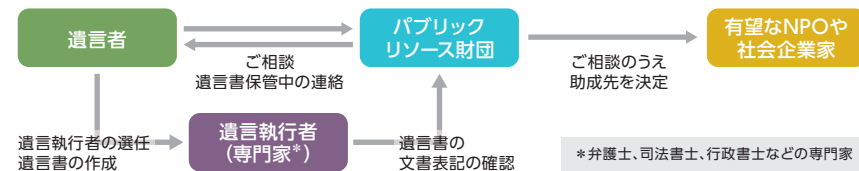
＜ゴールデンエイジの社会貢献をお手伝い＞

➤ 遺贈、相続をきっかけとする寄付

ビジネスや家庭で充実した人生を築いてこられたゴールデンエイジの方々へ、「末永い社会貢献」を実現していただく遺贈や相続に伴う寄付をご提案しています。

遺贈とは、遺言書をつくり残す財産（遺産）を相続人以外の特定の人や団体に送ったり寄付することをいいます。遺贈先を当財団にご指定いただくことで、生涯で築かれた財産を「オリジナル基金（P6-7）」として末永く社会に役立てることができます。

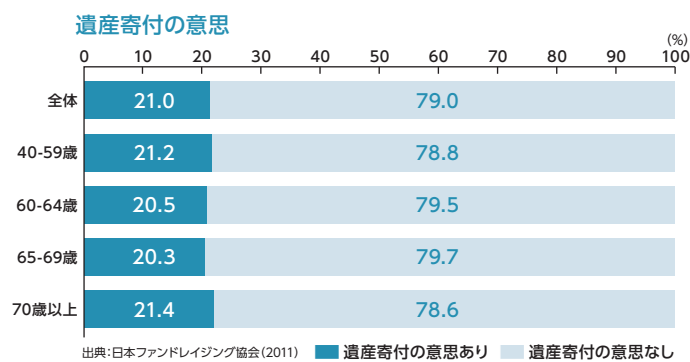
また、相続された財産の一部をご寄付いただき、故人の名前に関するメモリアル基金をおつくりいただけます。故人の生涯を讃え、遺志を受け継ぐことができます。



➤ なぜ今、遺贈寄付なのか

遺贈寄付に対して意思を持っているのは、40代以上では2割を超えています。5人に1人の人が、資産があれば遺贈を行ってもいいと考えているのに対し、実際に遺言（遺言に記さないと、遺贈は実行されません）を用意しているのは、3%にしか達していません。

遺贈の意思はあるのに、実施率は低いというギャップを埋め、寄付者の思いを尊重しながら社会課題を解決していくことが今求められています。



💬 専門家のコメント

ランドマーク税理士法人 代表
清田 幸弘様



税制改正による基礎控除額の引き下げで、相続税対策のご相談が増えています。社会的な意義のある寄付を選択肢にする方へ、パブリックリソース財団と共同して個人基金の設立や遺贈のご提案を広げていきたいと思っています。

※ランドマーク税理士法人は当財団と提携し、同社の顧客に相続対策の一環として個人基金の設立・運営から寄付先、支援団体の選定アドバイスを提供しています。

ほがらか信託株式会社 代表取締役 弁護士
中村 雅男様



信託は、とても魅力的な制度です。ご自分の資産に合わせて、生活や人生の設計ができ、病気や認知症の発症、死亡・相続などの状況の変化にも対応することができます。ご計画の中に遺贈を組み込むなど、お客様のほがらかで豊かな人生設計のお手伝いしております。

➤ 遺贈のための無料相談「いぞうの窓口」開始しました

いぞう寄付の窓口

遺贈寄付の推進のための全国組織「全国レガシーギフト協会」の設立に参画しています。パブリックリソース財団では、安心して遺贈を行うための無料相談や、遺贈に対する情報の提供、遺贈先団体のご紹介（基準をクリアした団体のみ）、遺贈の活用方法のご提案を行います。

遺贈のやり方や専門家、気を付けるべきポイント、「どんな社会課題を支援すべきか」といった疑問にお答えします。

➤ 身近で学ぶ「相続・遺贈セミナー」

「相続・遺贈セミナー」として、全5回の連続セミナーを開催しています。親の世代のケア、自分自身の将来などを見据えつつ、人生の総決算となる寄付について、女性の関心は高く、「実行するにはどうすればいいの？」という質問が多く寄せられてきました。毎回専門家を招き、テーマごとの講演を聞いた後に、話しやすい空気の中で講師に直接質問をしたり、アドバイスをいただくことができます。



2016年度

- 第1回(2月) …… 相続のはなし
講師：本郷 順子様
(本郷税理士事務所／税理士)

2017年度(予定)

- 第2回(4月) …… 遺言とは
講師：中村 雅男様
(弁護士法人中村総合法律事務所／弁護士)
- 第3回(6月) …… 成年後見人制度
講師：高橋 弘様
(けやき野司法書士法人／司法書士)
- 第4回(8月開催予定) …… 生前契約とは
- 第5回(10月開催予定) …… 信託制度を活用する

＜あい基金によって、女性の社会貢献をお手伝い＞

「あい基金」は、女性支援に特化したユニークな寄付の仕組みとして進展させ、女性への支援や、次世代へ「恩送り」を考える際、その寄付や遺贈の受け皿になることを目指し、活動を行っています。



あい基金

女性が未来をつくる

➤ 支援者の見守る中、1年目の助成先決定

2016年度、あい基金初となる助成事業を行いました。東日本大震災の被災地において女性が中心となって取り組む、女性の生業の場づくりや地域づくりの活動を応援するため、東北3県から2団体に1年50万円の2年間継続助成を決定しました。

助成審査会は、あい基金創設1周年イベントと同時開催し、支援者の見守る中での公開プレゼンテーションとなりました。寄付金が実際に団体の活動に結び付く過程を直に見届けられる機会とし、また団体の悩みに参加者がアドバイスをする「知恵出しセッション」を行い、寄付者と団体とが交流する場となりました。

助成団体のみならずあい基金とかかわりのあった団体に対しては、あい基金の連携団体である一般社団法人Women Help Womenが定期的に訪問し、相談やアドバイスをを行っています。



「知恵出しセッション」の様子

寄付金額 …… 2,858,348円
助成金額 …… 1,000,000円
応募総数 …… 8団体
助成団体数 …… 2団体
助成団体 …… 株式会社WATALIS
NPO法人ウィメンズアイ

➤ 東北スタディツアー

助成事業の実施に先駆けて、2016年8月、支援者の皆様と一緒に、東北被災地で女性が中心となって取り組む就業の場づくりを見聞する「あい基金 東北スタディツアー」を開催しました。女性が時間のやりくりをしながら働ける手仕事や、コミュニティカフェ、店舗の運営など、様々な事業が現地でしっかりと芽生えていました。

参加者の声

多くの団体を効率よく 回ることができ、たいへん充実したスタディツアーとなりました。訪問先も実際に手仕事をしているところから、中間組織、さらには 女川の復興の概要のレクチャーなどを受けることができ、大変参考になりました。



寄付者と活動団体との交流

企業のCSR活動と協働

企業、中間支援、NPOが協力してひとつの目的に取り組む「未来につなぐふるさと基金」

「未来につなぐふるさと基金」は、パブリックリソース財団が、キャノンマーケティングジャパン株式会社（以下、キャノンMJ）より、使用済みカートリッジ回収数やコピー用紙販売数に応じたご寄付をいただいで運営しています。キャノングループ、パブリックリソース財団、日本自然保護協会が協力して、生物多様性保全の活動を行う団体を支援し、広く市民に向けた啓発に取り組んでいます。



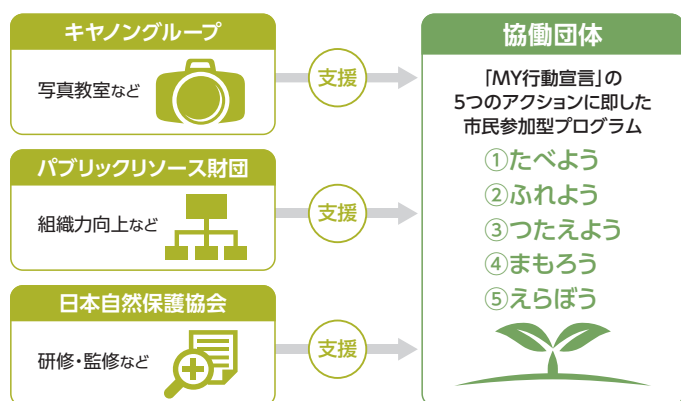
2016年度は

- 5つの助成団体に2,499,360円を助成
- 5回の写真教室を実施
- 34の市民参加型プログラムに合計731名が参加しました

助成団体

- NPO法人 グラウンドワーク三島（静岡県）
- NPO法人 棚田LOVER's（兵庫県）
- 真庭遺産研究会（岡山県）
- NPO法人 西中国山地自然史研究会（広島県）
- NPO法人 おおいた環境保全フォーラム（大分県）

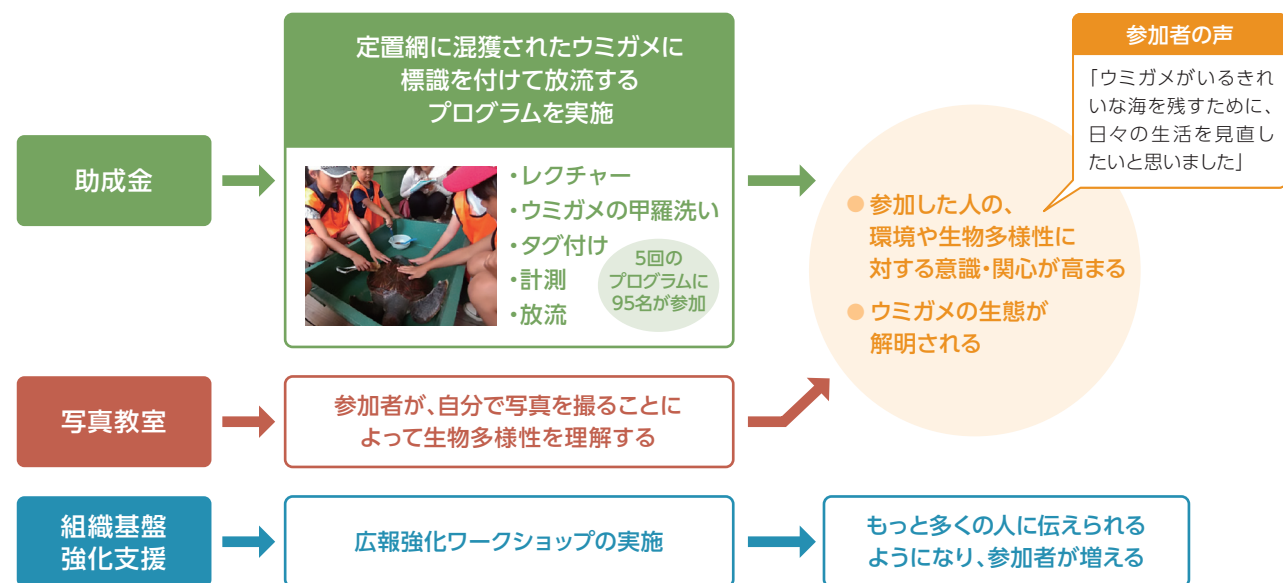
—— 未来につなぐふるさとプロジェクトの概要 ——



各団体の活動の様子は、キャノンMJの「未来につなぐふるさとプロジェクト」に掲載されています。
<http://cweb.canon.jp/csr/furusato/>

例えば NPO法人おおいた環境保全フォーラムでは…

助成金、写真教室、組織基盤強化支援を活用して、生物多様性に対する意識・関心を高めました



寄付者のコメント

キャノンマーケティングジャパン株式会社 CSR本部
 石阪 盛康様



各地の活動に組み入れて頂いている一眼レフカメラ写真教室では、参加された皆さまから「ファインダーを覗いていつもと違う風景に気付けた」「凄く綺麗な自然の写真が撮れた」などのご感想を頂いており、生物多様性に触れる良い機会となっているようで大変光栄です。これからもパブリックリソース財団、日本自然保護協会のご協力を頂きながら協働団体へキャノンならではの支援を行い、生物多様性の啓発・保全に貢献出来るように尽力してまいります。

パートナーのコメント

公益財団法人日本自然保護協会 副部長
 道家 哲平様



本事業は、助成先団体を資金的に支援するにとどまらず、広報・発信力・普及啓発力の構築も支援するという他にはない特徴を持っています。基金出資元キャノンマーケティングジャパン様が、この一環として提供する写真スキルアップ講座後に届く報告写真は、現場や地域の人々の魅力を一層伝えるものとなっています。支援後も活躍し、応援してもらえる地域団体を育て、生物多様性保全に寄与する事業とし更なる発展を期待しています。

社員募金による社会貢献活動の運営を支援

➤「損保ジャパン日本興亜ちきゅう倶楽部」

損害保険ジャパン日本興亜株式会社の社員によるボランティア組織「損保ジャパン日本興亜ちきゅう倶楽部」の助成プログラム「Heart & Artsプログラム」の運営支援を行いました。同プログラムは、美術、音楽、舞台芸術などを通じて障害者がアートの力で自分を自由に表現する活動を実践する団体を支援するものです。当財団では、同プログラムの趣旨および応募要項の作成協力、助成団体の公募、助成団体の一次審査を行ない、損保ジャパン日本興亜ちきゅう倶楽部で行なう最終選考への推薦を行ないました。

➤「アズビルみつばち倶楽部」

アズビル株式会社および同社の有志社員による寄付の仕組みである「アズビルみつばち倶楽部」の活動を支援しました。倶楽部会員が毎月100円を拠出して集めた寄付をもとに、会員が推薦する市民活動団体に対して資金支援を行なっています。活動の事務局として、支援先の募集、申請受付、支援先選定などの業務や、本プログラムへのコンサルティングを行ないました。

企業の本業を通じた社会貢献活動を支援

➤ 社会貢献QUOカード「ささえあい」を共同開発

コンビニエンスストアなど全国約5万5千店で使える便利なプリペイドカード「QUOカード」。ギフトとして贈る際には人と人の心を繋ぐ役割も果たしてくれます。環境、子ども、社会福祉、緊急支援のテーマから寄付先を選べる社会貢献QUOカード「ささえあい」を株式会社クオカードと共同開発しました。



寄付金額……603,520円 販売枚数……15,089枚

エイブルアート・カンパニー所属の、障害を持つアーティストの2作品がカードデザインに採用されました。

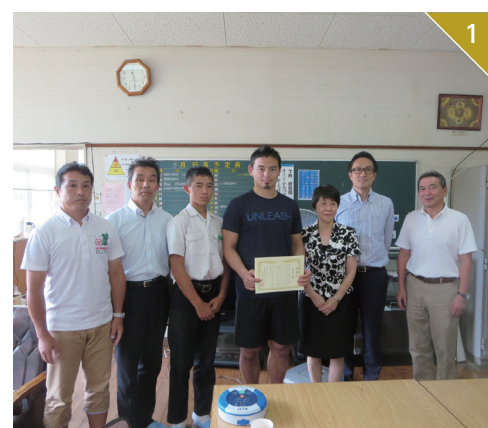
寄付、社会貢献推進のための
 対外活動

2016年度は、社会的インパクト評価の推進、遺言や相続財産からの寄付を推進する全国レガシーギフト協会の設立、休眠預金法案の成立など、非営利セクターの基盤整備にかかわる活動に、専務理事の岸本幸子を中心に、積極的に参画してまいりました。また、講演、寄稿、企業のCSR報告書への第三者意見の執筆、ステークホルダーダイアログへの出席などを通じ、企業のCSR・社会貢献を推進する活動を行いました。

多様な社会課題の解決への支援「テーマ基金」

- **あい基金** 女性の経済的自立をめざして
- **アート&ヘルス基金** ケアの現場に「生きることを支えるアート」を
- **AED・地域あんしん基金** 100メートルに1台をめざして、地域の公共的な施設にAED設置を推進
- **AED・健康スポーツ基金** スポーツ中の事故や体調の急変に、誰もがすぐに対応できるように
- **教育基金** 経済的に困難な家庭の子どもたちに、学習機会と将来への夢を
- **未来につなぐふるさと基金** 生物多様性に関する市民参加型プログラムを行う団体を支援
- **ふくしま未来基金** 30年後の福島が、人々が生き活きと暮らせる地域であるように
- **魚沼の未来基金** 魚沼地域の未来を切り拓く人材や団体を支援

写真で見る2016年のテーマ基金



- ① AED寄贈式では、五郎丸選手が寄付者と知らずに参加した中学生のチームキャプテンが、AEDを直接受け取るという嬉しいサプライズが(AED健康スポーツ基金)。
- ② NPO法人がんばろう福島、農業者等の会では、「顔の見える関係に風評被害はなし!」をモットーに、福島の農家視察ツアーを開催しました(ふくしま未来基金)。
- ③ 助成プログラムでは、第三者で構成された審査委員会が、団体・プロジェクトの審査を行います。
- ④ NPO法人Lotusでは、福島県木を使用したおもちゃを開発しています。「木練がっこう」には、4,200人を超える来場がありました(ふくしま未来基金)。

AEDが地域のどこでも使えるように「AED・地域あんしん基金」

当基金は、ご寄付をもとに、多くの市民が利用する公共施設や福祉施設にAEDを寄贈しています。2016度は、ジョーンズラングラサル株式会社様が、日本法人創立30周年の記念活動として、養護施設にAEDの寄贈を行いました。寄贈式では、心肺蘇生講習も併せて実施しました。

寄付金額 1,339,087円
寄贈台数 5台 ※前年度以前受け入れ寄付分も含む
寄贈先 認定NPO法人フロンティア南相馬(2015年度からの持ち越し)
 のびのび学童保育所(2015年度からの持ち越し)
 社会福祉法人砂町友愛園 砂町友愛園養護部
 社会福祉法人聖友ホーム 児童養護施設聖友学園
 社会福祉法人東京愛育苑 東京愛育苑向島学園

スポーツ中のいざという時に「AED・健康スポーツ基金」

ご寄付をもとに、地域スポーツに関わる多くの人がAEDを使えるよう、スポーツチームへの寄贈をしています。2016年度はラグビープレイヤーの五郎丸歩選手が熊本地震の被災地のラグビースクールに寄贈を行いました。また、キャノンマーケティングジャパン株式会社様は、東日本大震災の被災地へ寄贈を行いました。

寄付金額 1,639,413円
寄贈台数 5台 ※前年度以前受け入れ寄付分も含む
寄贈先 熊本サンデーズR.F.C ジュニア
 山鹿ラグビースクール「レッドフォーンズ」
 岩手県ラグビーフットボール協会
 宮城県ラグビーフットボール協会
 福島県ラグビーフットボール協会

寄付の効果を最大限に高め、手ごたえのある寄付に

評価

社会的インパクト評価 ～寄付者に成果を感じてもらうために～

寄付や助成によって行われたプログラムが実際にどのような社会的インパクトを生むのか、ロジックモデルやSROI (Social Return on Investment) などの手法を使って評価しています。2016年度は、NPO法人アレルギー支援ネットワークにおける組織基盤強化事業のSROI評価を開始しました。

これまでの評価事例

- ▶ ゴールドマン・サックス「中小企業経営革新プログラム」社会的インパクト評価
- ▶ Panasonic NPOサポート ファンド 社会的インパクト評価
- ▶ Panasonic NPOサポート ファンド助成事業評価
- ▶ JTインターナショナル財団 東日本大震災被災地支援活動にかかる民間寄付の成果測定

組織評価 ～「寄付適格性」を評価～

当財団では、組織評価のツールとして、NPOの組織の「事業性」と「運動性」の両面をみる「NPOマネジメント診断シート」を開発し、これまでに40団体以上の組織評価を行ってきました。この組織評価システムを発展させ、ご寄付を1円も無駄にすることなく効果的に活かせる団体を寄付者や社会的投資家にご紹介するために、「寄付適格性」の評価を開始しました。「寄付適格性」の評価は、これまでも評価の視点として重視してきた、「ミッション・ビジョン」「対象者のニーズへの対応」「目標の達成度」に加え、組織が対象者のニーズを的確に把握しているか、どのような変化をもたらすかが明確になっているか(セオリーオブチェンジ)、それに照らし合わせて成果評価を行っているか、環境変化に対応してプログラムを変化させているか、失敗から学んで改善を行う組織であるか、などの新たな視点を加えています。2017年度には評価対象団体を増やし、格付けシステムとして稼働させて寄付者ニーズに応えていきます。



NPCのフレームワークを採用

寄付適格性評価のための新たな視点を加えるにあたっては、既存のさまざまな評価システムやフレームワークのResearchを行い、イギリスのシンクタンクであるNew Philanthropy Capitalが開発したフレームワークを採用しています。寄付適格性評価は、当財団が開発した組織評価ツールに、NPCのフレームワークの要素を足して再構成したものになっています。

寄付適格性評価の枠組み

- 社会的インパクトを出せる組織であるか
- 組織の信頼性
- 「目的」「インパクト実践」
- 「人」「財政と運営」
- 重視する視点
 - 対象者のニーズをつかむ力
 - セオリーオブチェンジと成果評価
 - 環境変化への対応力
 - 失敗から学び改善していく力など

組織基盤強化

組織基盤強化のためのコンサルティング ～寄付を最大限に生かすために～

組織の基盤を強化することで、継続的な組織運営を可能にするるとともに、社会的なインパクトの拡大が可能になります。

2016年度は9団体のコンサルティングを行うことで、各団体の組織基盤強化を支援しました。

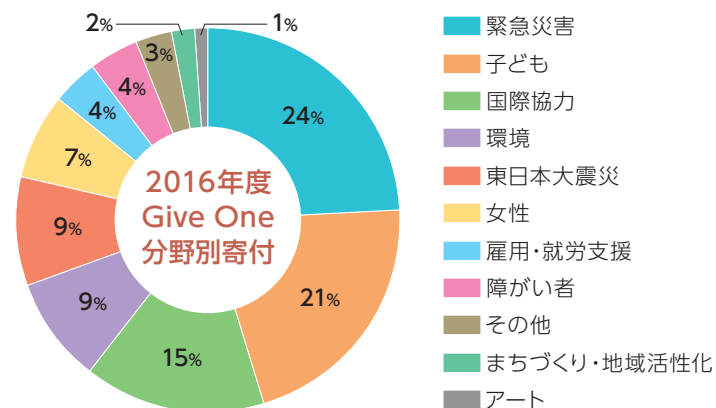
- 組織診断
- 計画策定
- 実行支援
- 評価、振り返り
- 継続的な組織運営
- インパクト拡大

- NPO法人Lotus(組織診断)
- NPO法人がんばろう福島、農業者等の会(組織診断)
- NPO法人びわこ豊稗の郷(組織診断)
- NPO法人コースター(組織診断)
- 社会福祉法人日本国際社会事業団(組織診断、資金調達)
- NPO法人よつくらぶ(資金調達)
- 認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット(人材育成の研修)
- NPO法人しずおか環境教育研究会(マーケティング力強化)
- NPO法人えがおさんさん(規定類の作成、収益改善)

寄付のはじめの一步を支援

日本で最も歴史と信頼のあるオンライン寄付サイト「Give One」(ギブワン)

収入の1%を寄付しよう、という思いを名前に込めたオンライン寄付サイトGive One(ギブワン)。初めての方でも手軽に、気軽に、1000円からご寄付いただけます。環境、子ども、まちづくり、災害復興など多くのテーマ、地域のプロジェクトを網羅することで、ユーザーに今の社会課題に触れていただき、共感するNPOへの寄付を通じて社会貢献に参加できる機会を提供しています。



Give One登録団体一覧

【環境】知床自然大学院大学設立財団、石西礁湖サンゴ礁基金、樹木・環境ネットワーク協会、エバーラスティング・ネイチャー、トラ・ゾウ保護基金、キープ協会、アイサーチ・ジャパン、サンクチュアリ エヌピーオー、霧多布湿原ナショナルトラスト、白神山地を守る会、日本ウミガメ協議会、アサザ基金、共存の森ネットワーク、緑と水の連絡会議、緑の地球ネットワーク、メコン・ウォッチ、グローバル・ヴィレッジ、グリーンアライアンス、日本クマネットワーク、JUON(樹恩) NETWORK、アースウォッチ・ジャパン 【国際協力】アイキャン、シャプラニール、難民を助ける会、ピース ウィンズ・ジャパン、アムダ(AMDA)、アジア・アフリカと共に歩む会、ハンガー・フリー・ワールド、日本国際ボランティアセンター(JVC)、ケア・インターナショナルジャパン、ジャパン・プラットフォーム、民際センター、ジェン(JEN)、地球の友と歩む会、タンザニア・ポレポレクラブ、パレスチナ子どものキャンペーン、日本国際民間協力会(NICCO)、CODE 海外災害援助市民センター、WE 21ジャパン、チャイルド・ファンダ・ジャパン、21世紀協会、ワールドキッズコミュニティ、インド福祉村協会、ブリッジ エーシア ジャパン、グッドネーパーズ・ジャパン、チャイルド・リソース・センター、JHP・学校をつくる会、カパティラン、シャンティ国際ボランティア会、国際医療技術財団、地雷廃絶日本キャンペーン、e-Education、ウォーターエイドジャパン、ジャパンハート、日本地雷処理を支援する会(JMAS)、ムラのミライ、アジア協会アジア友の会 【持続可能な社会】ナマケモノ倶楽部、きょうとグリーンファンド、トージバ、気候ネットワーク、野生生物保全論研究会、A SEED JAPAN、FoE Japan、環境文明二十一、あおぞら財団、伊万里はちがめプラン、ESDJ 【障がい者支援】日本フィランソロピー協会、ぱれっと、めぐはうす地域生活支援センターMOTA、DPI日本会議、トゥギャザー、ゆるら、日本点字図書館、スペシャルオリンピックス日本、こころ塾、長野サマライズ・センター、サイエンス・アクセシビリティ・ネット、インフォメーションギャップバスター、響愛学園 【患者支援】病気の子ども支援ネットワーク遊びのボランティア、日本クリニックラウン協会、マギーズ東京 【女性】女性の安全と健康のための支援教育センター、働く女性の全国センター(ACW2)、しんぐるまざあず・ふぉーむ・関西 【暴力】女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ、全国女性シェルターネット、レイプクライシスセンターTSUBOMI 【ホームレス支援】新宿連絡会、ビッグイシュー基金、自立支援センターふるさとの会 【HIV・エイズ】HIVと人権・情報センター 【科学】高木仁三郎市民科学基金、ロボカップ日本委員会 【児童労働】ACE 【児童養護施設】ブリッジフォースマイル 【子どもの虐待】子どもの虐待防止センター、子どもの虐待防止ネットワーク・あいち、児童虐待防止協会、CAPセンター・JAPAN 【子どもシェルター】子どもセンター「パオ」、子どもシェルターモモ、子どもセンターぽると 【子ども】東京シュレ、東京YMCA「liby(リビー)」、青少年育成支援フォーラム、楠の木学園、エッジ、リソースセンターone、アトピッツ地球の子ネットワーク、アレルギー支援ネットワーク、リヴォルヴ学校教育研究所、箕面こどもの森学園、e-MADO病気のこどもの総合ケアネット、SOS子どもの村JAPAN、こどもコミュニティケア、東京YMCA、ビーンズふくしま、遠野まごころネット、チャンス・フォー・チルドレン、日本IDDMネットワーク、越谷らるご、チャイルドラインあいち 【子育て】フローレンス 【貧困家庭】フードバンク関西、キッズドア、フードバンク山梨 【定住外国人支援】神戸定住外国人支援センター(KFC)、多言語社会リソースかながわ、バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター 【社会教育】芸術と遊び創造協会、日本おもちゃ病院協会、おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ、Hands On Tokyo、ETIC.(エティック) 【人権】アムネスティ・インターナショナル日本 【コミュニティファンド】みのお山麓保全ファンド 【NPO支援】新潟NPO協会 【就労支援】彩結び 【市民活動】ネットワーク・市民アーカイブ 【東日本大震災】いわき放射能市民測定室「たちね」、輝かなかまチャレンジド、住民互助福祉団体 ささえ愛山元、創る村、なごみ、ネットワークオレンジ、のんび〜りすみちゃんの家、グリーンケア&ピアサポート 福島れんげの会、ふよう土2100、みやぎ身体障害者サポートクラブ 【自殺防止】仙台いのちの電話、東京自殺防止センター 【芸術】芸術家と子どもたち、エイブル・アート・ジャパン 【まちづくり】金澤町家研究会、まちぽっと、尾道空き家再生プロジェクト、あおもりNPOサポートセンター、ぐらすかわさき

子どもの貧困問題や災害復興支援にご寄付をつなぎました

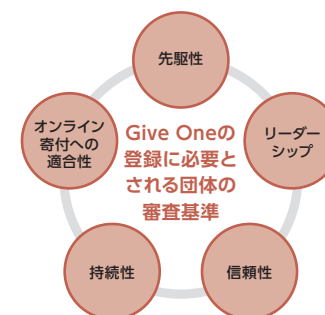
日本における子どもの貧困問題が注目され、子どもの7人に1人が貧困状態にあることが社会問題化しています。Give Oneでも2016年は、貧困世帯に食料などを届けている「フードバンク山梨」や、「フードバンク関西」、虐待などで家庭に戻れない子どもを支援する「子どもシェルターモモ」、貧困家庭の子どもたちに学習支援を行う「キッズドア」など、子ども分野の団体に多くのご寄付をいただきました。

また、4月に発生した熊本地震やネパール地震発生時の緊急支援など、大きな災害が起きた際のご寄付を、現地で活動するNGO/NPOにつなぎました。

寄付金額 ……27,484,233円
助成金額 ……21,704,697円
寄付件数 ……5,771件
助成実績 ……140団体
239プロジェクト

寄付のポータルサイトとしての役割

ドメスティックバイオレンス(DV)の被害者支援に取り組む団体は、被害者をさらなる暴力から守るために住所や連絡先を伏せるなど、情報発信に制約があります。Give Oneがご寄付の呼びかけや受け付けをするなど、寄付の窓口になっています。2016年度は、「全国女性シェルターネット」や「ウィメンズネットこうべ」などにあわせて100万円以上のご寄付をつなぎました。



登録団体のコメント

NPO法人フードバンク山梨 理事長
米山 けい子様



フードバンク山梨とGive Oneとの出会いは、3年前運営資金が減少し、困窮世帯への支援が半減、運営資金確保の重要性が増した事がきっかけでした。組織が一体となり、「貧困世帯に食料を、乳幼児にミルクとオムツを届けたい」というテーマで取り組み、多くの支援をいただくことができました。日本は寄付文化が根付いていないと諦めの気持ちでいた私たちに、希望と自信を与えていただきました。

身近なことからできる多様な寄付のしくみ

◆ 自動販売機の飲み物1本買うごとに2円が寄付になる「ゆび募金」

寄付つき飲料自動販売機の設置を進めている認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会と連携し、飲み物の売り上げから東日本大震災に関連する二つの基金に寄付を募集し、助成を行いました。

ゆび募金は、自動販売機設置場所の提供者と飲料メーカーがそれぞれ、飲料1本の販売につき1円ずつの寄付を拠出します。購入者は、自動販売機に表記されている支援先を知って購入することができる仕組みです。

● 東日本大震災広域避難者支援基金

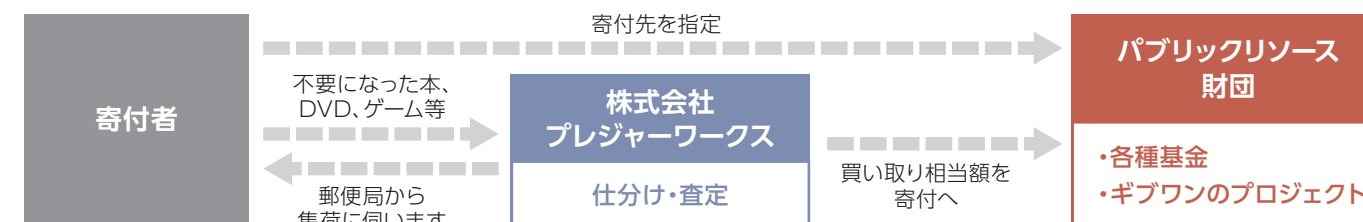
寄付金額 ……491,715円 助成金額 ……417,962円
助成団体 ……● NPO法人こどもプロジェクト
● 福島県自主避難・母子避難新潟市自治連絡協議会
● NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク

● 東日本大震災復興支援基金

寄付金額 ……1,004,378円 助成金額 ……853,725円
助成団体 ……● 一般財団法人たんぼぼの家
● NPO法人ビーンズふくしま
● NPO法人遠野まごころネット

◆ 片付けと寄付が同時にできる!「BOOK募金」

不要になった本やゲームの買い取り額を寄付できる「BOOK募金」。株式会社プレジャーワークスを利用して本、DVD、ゲームなどを売った寄付者の方々から当財団を寄付先として指定いただき、2016年度は22,886円のご寄付をいただきました。



Special Thanks

賛助会員および財団運営へのご寄付

- 株式会社アイリックコーポレーション 様
●雨森 孝悦 様
●磯 ちず子 様
●磯谷 千代美 様
●宇都宮 高明 様
●浦田 泉 様
●蛭名 喜代作 様
●大内 櫻子 様
●太田 達男 様
- 岡田 州代 様
●岡田 恵子 様
●金谷 千慧子 様
●小樽 雅章 様
●桜井 晃 様
●佐藤 信行 様
●公益財団法人助成財団センター 様
●鈴木 政孝 様
●損害保険ジャパン日本興亜株式会社 様
- 高野 光世 様
●寺尾 仁 様
●土肥 寿員 様
●認定特定非営利活動法人
日本IDDMネットワーク 様
●野澤 タキ子 様
●特定非営利活動法人
のんび〜りすみちゃんの家 様
●長谷川介護サービス株式会社 様
- 羽生 善治 様
●速水 洋志 様
●原田 智明 様
●藤井 幸子 様
●牧野 洋子 様
●牟田口 雄彦 様
●山岸 弘志 様
●山崎 富一 様

あい基金

- 浅野 幸子 様
●石川 房子 様
●磯 ちず子 様
●伊藤 毅志 様
●太田 達男 様
●岡田 州代 様
●金波 繁子 様
●金谷 千慧子 様
●神谷 和枝 様
- 河合 充子 様
●岸本 幸子 様
●木山 啓子 様
●有限会社サテライト・オフィス 様
●佐渡 アン 様
●佐藤 由利子 様
●桜井 陽子 様
●株式会社シンリー・ジャパン 様
●損害保険ジャパン日本興亜株式会社 様
- 有限会社タカマツ・アソシエーツ 様
●田代 祐子 様
●田島 千里 様
●中村 順子 様
●長浜 靖子 様
●西田 治子 様
●財団法人日本国際交流センター 様
●灰田 史英 様
●長谷川 恒子 様
- 原田 桂子 様
●日野 敏孝 様
●藤井 幸子 様
●藤田 寛 様
●星田 寛 様
●牧野 洋子 様
●松田 宏一 様
●山岸 弘志 様
●吉川 みゆき 様
- 他匿名9名様

アート&ヘルス基金

- 岡田 恵子 様
- 株式会社クオカード 様
- 小林 洋子 様
- 茂木 義三郎 様
- 他匿名1名様

魚沼の未来基金

- 株式会社アシスト 様
●安達 辰也 様
●阿部 市郎 様
●阿部 秀明 様
●阿部 勝 様
●阿部 康雄 様
●阿部 保幸 様
●井口 晴一 様
●井口 洋一 様
●池田 健一 様
●飯酒盃 敏 様
●石坂 幸子 様
●石田 眞一 様
●石田 努 様
●有限会社石田電機商会 様
●石原 友三郎 様
●石山 富蔵 様
●今井 満 様
●株式会社魚沼さく泉 様
●内田 幹夫 様
●内山 信裕 様
●株式会社エフエム雪国 様
- 遠藤 憲子 様
●遠藤 実 様
●大平 明 様
●大平 春子 様
●大竹 一夫 様
●大塚 常作 様
●大塚 秀夫 様
●大津 潔 様
●大桃 久子 様
●岡村 聡 様
●小川 一夫 様
●奥村 邦夫 様
●小倉 敏夫 様
●小野澤 一成 様
●小野塚 徹 様
●貝瀬 一恵 様
●貝瀬 哲男 様
●籠田 淑子 様
●笠原 清美 様
●笠原 敏博 様
●風巻 良夫 様
●風間 健 様
- 片山 茂 様
●上村 一也 様
●上村建設工業株式会社 様
●上村 迅 様
●上村 忠義 様
●上村 弘之 様
●川内 正 様
●川島 ヤイ 様
●岸野 悦雄 様
●木村 盛 様
●桐生 厚義 様
●桐生 好雄 様
●学校法人金城学園幼保連携型
認定こども園・金城幼稚園・保育園 様
●農事組合法人グリーンアース津南 様
●桑原 信一 様
●桑原 正 様
●桑原 保夫 様
●有限会社小出自動車工業 様
●粉川 英明 様
●小林 克行 様
●有限会社小林電設 様
- 酒井 忠久 様
●櫻井 厚子 様
●櫻井 一枝 様
●佐藤 千枝子 様
●佐藤 敏郎 様
●佐藤 富男 様
●佐藤 正雄 様
●佐野電設株式会社 様
●塩沢信用組合 様
●塩沢信用組合職員親睦会 様
●塩沢信用組合信和会 様
●清水 道夫 様
●有限会社新林屋 様
●菅井 英明 様
●杉山 和伸 様
●鈴木 伸太 様
●鈴木 清喜 様
●鈴木 美穂 様
●須藤 昇二 様
●角谷 正雄 様
●関 久良 様
●瀬下 賢一 様

- 園部 昌代 様
●有限会社ソワン 様
●有限会社大栄食品 様
●有限会社大地 様
●有限会社ダイヤモンド警備保障 様
●高野 好雄 様
●高野 賢一 様
●株式会社高橋工務所 様
●高橋 郁夫 様
●高橋 清隆 様
●高橋 久子 様
●高橋 ひろみ 様
●高橋 守 様
●滝沢 完治 様
●株式会社タキノガワ 様
●武淵 和昭 様
●橘 武 様
●田村 正治 様
- 田村 正典 様
●月岡 奈津子 様
●寺尾 仁 様
●富所 清治 様
●外谷 光雄 様
●苗場自動車株式会社 様
●中澤 幸子 様
●中澤 好夫 様
●中嶋 成夫 様
●中嶋 京子 様
●有限会社中島設備 様
●中嶋 知一 様
●長屋 昇 様
●南雲 一成 様
●南雲 権治 様
●株式会社羽吹組 様
●林 澄子 様
●林 秀夫 様

エイブルアート年賀状基金

- 株式会社プリプレス・センター 様

AED・健康スポーツ基金

- キヤノンマーケティングジャパン株式会社 様
●株式会社クオカード 様
●五郎丸 歩 様
●茂木 義三郎 様
- 他匿名2名様

AED・地域あんしん基金

- キヤノンマーケティングジャパン株式会社 様
- 他匿名2名様

Give One登録団体を指定したご寄付

- のべ5,771人のオンライン寄付の皆様
●株式会社アイリックコーポレーション 様
●キヤノンマーケティング株式会社 様
●株式会社クオカード 様
●坂本 千賀子 様
●azbilみつばち倶楽部 様

教育基金

- 岡田 恵子 様
●株式会社地域総合研究所 様
●吉田 親 様
- 他匿名10名様

純 子ども基金

- 國田 純 様

東日本大震災3.11基金

- 特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会 様

東日本大震災広域避難者支援基金

- 特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会 様

- 株式会社ハリカ六日町 様
●平賀 孝雄 様
●福原 ヒロ子 様
●福原 政文 様
●藤ノ木 靖子 様
●星 宗兵 様
●星 仲裁 様
●株式会社丸川屋工務店 様
●有限会社丸高 様
●合資会社みうらや 様
●水澤 行雄 様
●株式会社光成電気 様
●三友 泰彦 様
●皆川 賢太郎 様
●株式会社みやま 様
●村山 和彦 様
●村山 壮 様
●八木 健二 様
- 山岸 君江 様
●山岸 政司 様
●山崎 四郎 様
●株式会社山田建設 様
●山田 廣正 様
●山田 みつ枝 様
●山田 幸男 様
●山田 芳男 様
●株式会社ユニ宣企画 様
●株式会社吉田建設 様
●米山 信男 様
●六四会 様
●涌井 好一 様
●涌井 フサイ 様
●渡辺 みさ子 様
●割田 賢一 様
●募金箱にご寄付をいただいた皆様
- 他匿名2名様

東日本大震災復興支援基金

- 特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会 様

ふくしま未来基金

- 浅野 幸子 様
●岡田 恵子 様

未来につなぐふるさと基金

- キヤノンマーケティングジャパン株式会社 様
- 他匿名4名様

委託事業

- アズビル株式会社 様
●エヌ・アンド・エー株式会社 様
●クラブツーリズム株式会社 様
●埼玉県 県民生活部共助社会づくり課 様
●損害保険ジャパン日本興亜株式会社 様
●パナソニック株式会社 様

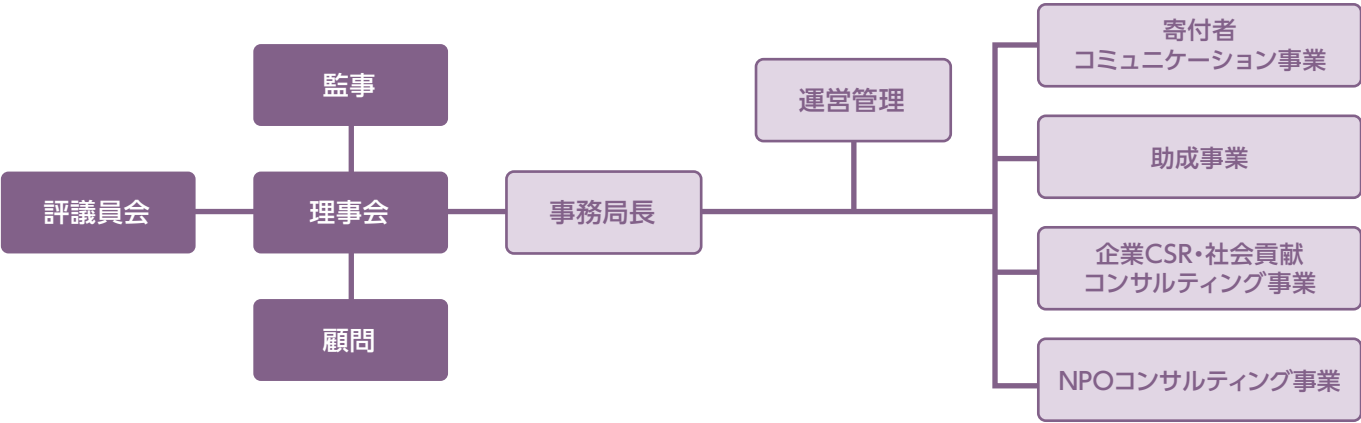
専門家・パートナー

- いずみ会計事務所 様
●梅本・栗原・上田法律事務所 様
●行政書士 江端 俊昭 様
●株式会社コトヴィア 様
●株式会社シン・ファンドレイジングパートナーズ 様
●一般社団法人全国レガシーギフト協会 様
●弁護士法人中村総合法律事務所 様
●公益財団法人日本健康スポーツ連盟 様
●一般社団法人ふくしま連携復興センター 様
●株式会社プレジャーワークス 様
●ほがらか信託株式会社 様
●ランドマーク税理士法人 様
●一般社団法人CSRレビューフォーラム 様
●株式会社PubliCo 様
●一般社団法人Women Help Women 様

組織体制

(2017年7月1日現在)

理事	久住 剛 ……公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・理事長
	岸本 幸子 ……公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・専務理事
	角方 正幸 ……株式会社大学改革 代表取締役社長
	鷹野 秀征 ……ソーシャルウィンドウ株式会社代表取締役、一般社団法人新興事業創出機構(JEBDA) 理事長
	土肥 寿員 ……公益財団法人交通遺児育英会 常務理事・事務局長
	西田 治子 ……一般社団法人Women Help Women 代表理事、オフィス・フロネシス代表
評議員	秋葉 武 ……立命館大学産業社会学部 教授
	雨森 孝悦 ……日本福祉大学 教授
	勝又 英子 ……公益財団法人日本国際交流センター(JCIE) 専務理事・事務局長
	中村 陽一 ……立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授
	榎 ひさ恵 ……特定非営利活動法人ニンジン 常務理事
	山崎 富一 ……特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長
	湯瀬 秀行 ……公益財団法人助成財団センター 事務局長代理
監事	跡田 直澄 ……嘉悦大学 副学長、大阪大学大学院 医学系研究科 特任教授
	富岡 順一 ……公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 理事
顧問	今田 忠 ……市民社会研究所 所長
	播磨 靖夫 ……一般財団法人たんぼぼの家 理事長
スタッフ 常勤:6名 非常勤:4名	田口 由紀絵 ……事務局長
	渡辺 裕 ……プログラムオフィサー
	新井 利延 ……プログラムオフィサー
	阿部 榮美子 ……経理担当
	関 和実 ……総務担当
	原田 桂子 ……総務担当
	由良 聡 ……法務・コンプライアンス担当
	河合 哲朗 ……シニアフェロー
	赤池 洋二 ……シニアフェロー



決算報告

正味財産増減計算書【平成28年4月1日から平成29年3月31日まで】

(単位:千円)

		2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度(*)
一般正味財産増減の部	1. 経常収益	事業収益	23,389	13,810	16,297	158
		受取補助金等	200	0	0	0
		寄付金収益	98,839	88,811	109,925	2,119
		その他収益	1,025	1,218	748	77
		合計	123,454	103,839	126,970	2,378
	2. 経常費用	事業費	117,949	105,083	106,690	88,695
		(うち助成金)	(65,082)	(64,587)	(88,710)	(75,387)
		管理費	5,337	4,817	16,469	6,740
		合計	123,287	109,899	123,159	95,435
	当期経常増減額	167	▲ 6,060	3,811	8,003	732
	当期経常外増減額	▲ 23	0	0	0	0
増減の部 指定正味財産	当期一般正味財産増減額	143	▲ 6,060	3,811	8,003	732
	一般正味財産期首残高	7,295	13,356	9,545	1,542	810
	一般正味財産期末残高	7,439	7,296	13,356	9,545	1,542
	受取指定助成金	▲ 1,000	0	1,000	0	0
	受取指定寄付金	58,246	158,142	363,885	48,769	29,120
	一般正味財産への振替額	▲ 98,839	▲ 88,811	▲ 109,925	▲ 75,841	▲ 500
	当期指定正味財産増減額	▲ 41,592	69,331	254,960	▲ 27,072	28,620
	指定正味財産期首残高	328,838	259,507	4,547	31,620	3,000
	指定正味財産期末残高	287,245	328,838	259,507	4,547	31,620
	正味財産期末残高	294,685	336,134	272,863	14,092	33,161

(*) 2012年度は設立第1期のため2013.1.17～2013.3.31の決算です。

貸借対照表【平成29年3月31日現在】

(単位:千円)

		2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度(*)
資産の部	1. 流動資産	現金預金	8,418	6,209	11,726	6,354
		未収金	347	1,447	2,216	6,273
		前払費用	585	580	453	576
		その他流動資産	0	0	25	0
		合計	9,351	8,236	14,421	13,203
	2. 固定資産	基本財産	3,000	3,000	3,000	3,000
		特定資産	287,260	326,032	256,187	1,547
		その他固定資産	320	320	320	0
		合計	290,580	329,352	259,507	4,547
		資産合計	299,932	337,589	273,928	17,751
負債の部	1. 流動負債	未払金	0	0	835	3,184
		未払費用	3,823	900	0	0
		前受収益	1,028	66	0	0
		前受会費	10	30	0	200
		預り金	385	459	230	275
		合計	5,247	1,455	1,065	3,659
		負債合計	5,247	1,455	1,065	3,659
正味財産の部	1. 指定正味財産	基本金	3,000	3,000	3,000	3,000
		指定寄附金	284,245	324,838	255,507	1,547
		指定助成金	0	1,000	1,000	0
		指定正味財産合計	287,245	328,838	259,507	4,547
	2. 一般正味財産	(うち基本財産への充当額)	(3,000)	(3,000)	(3,000)	(3,000)
		一般正味財産	7,439	7,296	13,356	9,545
		正味財産合計	294,685	336,134	272,863	14,092
	負債及び正味財産合計	299,932	337,589	273,928	17,751	33,304

(*) 2012年度は設立第1期のため2013.1.17～2013.3.31の決算です。